

## ゲスナー・ライブラリー

ゲスナー・ライブラリーの名前は、1516年にチューリヒで生まれ、65年にベストで没するまでの間に活躍した博物学者、医者であるコンラート・ゲスナーにちなんでいる。彼は「書誌学の父」と呼ばれ、神学、数学、医学といった各学問の知識はもちろんのこと、ラテン語、ギリシャ語、フランス語などの数ヶ国語に通じており、ローザンヌ大学ギリシア語教授、チューリヒ大学哲学教授、博物学教授を歴任した博学多才な人物であった。

ゲスナー・ライブラリーは、雄松堂書店創業65周年の1996年に、本社ビルの6階に開室された、「本の本」を集めたレファレンス・ライブラリーである。こぢんまりとしたビルの一室であり、ライブラリーというよりは個人の書斎を思わせるが、その中におよそ1,500点、2,000冊の資料が配架されている。うち、1,000点あまりの資料は、創業70周年にあたる2002年に出版された『ゲスナ

ー・ライブラリー所蔵：欧文書誌文献目録』に掲載されている。

同ライブラリーは、雄松堂書店が過去40年に渡って、西洋の古書、稀書を取り扱う際に実際に使用したオークションのカタログや稀書目録、各種書誌類が蔵書を中心となっているため、実用的な趣が強い。そういったコレクションの中で異彩を放っているのが、ゲスナーの著作である『万有文庫 (Bibliotheca universalis)』(1545年チューリヒ刊、初版)である。『万有文庫』は、世界初の網羅的書誌と言われている。本文は、ラテン語、ギリシア語、ヘブライ語で書かれた本を対象とした書誌であり、ゲスナーが生きた16世紀までのあらゆる著述家を、名前のアルファベット順に排列した著作目録の形式をとっている。同じく書架に並ぶ『動物誌第1巻胎生四足動物編 (Historia animalium lib. I de quadrupedibus viviparis)』(1551年チューリヒ刊、初版)ともども、蔵書に重厚さを添えている。

ゲスナー・ライブラリーへは、都営新宿線「曙橋」駅もしくは営団丸の内線「四谷三丁目」駅の利用が便利である。

開館時間は月曜から金曜までの10:00~17:00、ライブラリー担当の主事が1名いるが、事前に連絡するのが望ましい。ゲスナーの著作を手にとって見たい方、洋古書に興味がある方には是非訪れていただきたいライブラリーである。

2003年6月27日訪問

(人文課 中村淳一)

